

近畿産業考古学会

The Kinki Industrial Archaeology Society

第 127 号

目次

1. シマノ自転車博物館(堺市)の見学会(予告) 1
2. 年次大会行事の開催(予告) 2
3. 学会誌『近畿の産業遺産』第17号 原稿募集 2
4. 学会ホームページ・リニューアルのお知らせ 2
5. 「文学作品に記録された近畿の鉄道と都市景観(神戸市中心部 その1)」見学記・寺島俊之 2
6. 【お知らせ】奥谷金網製作所ミュージアム(神戸市中央区)がオープンしました 4
7. 学会誌の電子ジャーナル公開について 4
8. 2022年度第1回役員会議事録 4

シマノ自転車博物館(堺市)の見学会(予告)

3月25日、シマノ自転車博物館がリニューアルオープンしました。大仙公園内にあった旧自転車博物館が移転したもので、展示面積は3.5倍に拡大しました。堺の自転車生産は鉄砲鍛冶を起源とし、大正期に国産化が進んで産業として成立、国内生産で中心的地位を確立しました。高度成長期には輸出も隆盛を極めたが、現在は輸入品が国内でもシェアを高めています。現在も堺市周辺には多くの自転車関連企業が拠点を置き、堺市も自転車によるまちづくりに力を入れています。

- ・開催日時：9月24日(土)
- ・集合：南海高野線「堺東」駅・北西口改札、13:30
- ・見学先
シマノ自転車博物館(堺市堺区南向陽町2丁2-1)
- ・費用：入館料；500円+資料代；500円
中学生以下、65歳以上の方は入館料無料です。
詳細は次号でお知らせいたします。

参加希望者は9月20日(水)までに、事務局宛にメールかFAXにてお申し込み下さい。

※体温が37.5度以上の方は入館できません。入館時の手指消毒にご協力下さい。各自マスクを着用し、館内での会話はお控え下さい。

特別展「自転車の旅・様々なかたち」が2023年3月20日(日)まで開催中です。

【シマノ自転車博物館に関する情報】

- ・開館時間：10:00~16:30(入館は16:00まで)
- ・休館日：月曜日、祝日の翌日(土、日の場合は開館)、年末年始
- ・電話：072-221-3196(代表)
- ・公式HP：<https://www.bikemuse.jp>

年次大会行事の開催(予告)

いまだ新型コロナウイルスの収束が見通せないため、本年度の次大会は昨年に引き続き、大会行事のうち講演会と研究発表をオンラインで実施いたします。

- ・開催日時：11月19日(土)
- ・特別講演：13:30~
寺島俊之氏(本会幹事)、タイトル未定。
寺島幹事は、幹事に就任されてから12年の長きにわたり、ニューズレターの編集担当として、同紙の主要記事(総会・年次大会報告や見学記など)を執筆されています。これらの記事の蓄積は、それ自身が本会の歴史の記録となっています。この経験を基に本会活動を振り返り、エピソードも交えてご報告いただきます。
- ・研究発表講演会(発表者募集中)
Web会議ソフト「Zoom」を使用します。
詳細は次号でお知らせいたします。

研究発表講演者募集 申込締切日：11月6日(日)

事務局宛にメールかFAXにてお申し込み下さい。

学会誌『近畿の産業遺産』第17号 原稿募集

諸般の事情で学会誌『近畿の産業遺産』第16号の発行が遅れていることにお詫びを申し上げます。

本年度の事業計画でもお示しましたように、今後、投稿規程を柔軟に運用し、資料紹介など論文形式をとっていないものも積極的に受け付けることになりました。また、ページ数制限も緩和することになりました。

次号(第17号)については、下記のスケジュールで原稿を募集します。多くの会員の投稿をお待ちしています。奮ってご応募下さい。

・申込締切日：

論文(査読付き)；2022年12月31日

調査報告・研究ノート・資料紹介など(論文以外)；
2023年2月28日

学会ホームページ・リニューアルのお知らせ

現在のホームページは2016年度に更新してから約6年が経過しました。更新以来、長年にわたり、垣本前幹事に管理と更新を引き受けていただきました。この間、ホームページの機能やデザインが大きく変化しました。このため、学会活動へのより有効な活用に向けて、管理・更新作業の簡易化、ウェブページのビジュアル化を図ることとしました。

新ホームページは秋ごろの完成を目指しています。完成次第、アナウンスさせていただきます。

「文学作品に記録された近畿の鉄道と都市景観

(神戸市中心部 その1) 見学記

寺島俊之

5月28日(土)に頭記の見学会を開催した。街歩き見学会として初めてテーマを設けて実施する。今回は「文学作品に記録された神戸市中心部」のシリーズの第1回目である。館内見学は②項のみの街歩きで実施した。行程全体にわたって、岡田広一氏(本会副会長)から案内と解説を受けた。

■見学行程

- ①諏訪山動物園跡(現・諏訪山児童公園)・金星台
- ②海外移住と文化の交流センター・移住ミュージアム(旧国立移民収容所)
- ③北野異人館街・トアロード・神戸ムスリムモスク

JR元町駅東改札口に13:30に集合。参加者は13名である。神戸が不慣れな参加者に配慮し、岡田氏より元町駅周辺の説明があった。

元町駅の開業は大阪・神戸間の鉄道開通時(1874(明治7年))であるが、近隣に三宮神社が所在するため当初の駅名は三ノ宮駅であった。しかし、1931(昭和6年)に高架線が完成すると三ノ宮駅は現在地に移転した。これは国際航路発着港である第三突堤・第四突堤への

利便性確保と推測する。現在の元町駅は1934(昭和9年)に開業したが複々線完成は1937(昭和12)年である。このため、高架橋支柱の間隔等に名残が認められる。また、駅構内のアーチや照明器具の配列にモダニズムを感じた。

元町駅前13:46の市バス7系統(神戸駅ゆき)に乗車して「諏訪山公園下」で下車する。諏訪神社は古代より生田神社と長田神社の間に鎮座するので、古くから中宮と称されてきた。1873(明治6年)に境内の一部が「諏訪山遊園」に開放され、温泉が湧出すると行楽地に変容した。諏訪山動物園(1928(昭和3)年～1946(昭和21)年)は諏訪山遊園の一部と見なされて、信仰と温泉が結びついたテーマパークを構成していた。

なお、諏訪山公園には1874(明治7年)12月9日における「金星太陽面通過観測地」の記念碑が残されている。当日は世界75か所で観測が実施され、日本では長崎・神戸・横浜で観測が実施された。神戸ではフランス隊が写真撮影に成功、

国内3地点は2021年度(第4回)日本天文遺産に認定された。

諏訪山動物園跡は「諏訪山児童公園」と「金星台」として現存する。コンクリート構造物は獣舎の遺構であり、金星台には「ラジオ塔」も所在する。なお、バス停は標高50m、「諏訪山児童公園」が標高80m、「金星台」は標高90mである。衰退の一因は急坂とバックヤードへの自動車搬入が困難であった点かもしれない。

写真1 元町駅構内

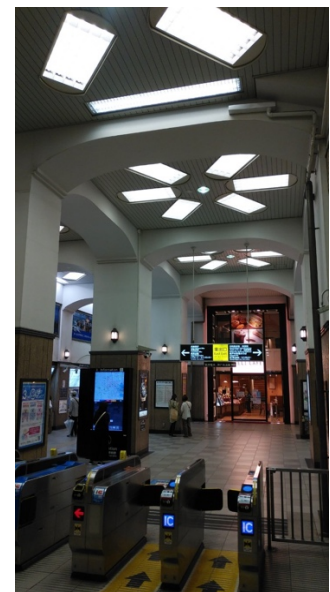


写真2 諏訪山動物園跡

文学作品には、下記で登場する。

- ・富士ホテル・諏訪山動物園

西東三鬼「続神戸」講談社学芸文庫, p.9, 1942(昭和17年)。「突然、頭の上の諏訪山動物園のライオンが咆哮した。」

神戸市立博物館1階常設展示室には「映像 市民の

楽しみ「昭和時代初期の神戸」(約7分)で諏訪山動物園のライオン映像が展示されている。当時はパンダに匹敵する客寄せ珍獣だったのかもしれない。



写真3 神戸市立博物館・1階常設展示室

次の見学先は「海外移住と文化の交流センター(旧国立移民収容所)」内の「移住ミュージアム」である。15:0に到着、入館に先立ち、若林あかね氏(本会幹事)から施設と建物の概要について説明を受ける。その後、専門調査員である天辰充幸様に出迎えて頂き、館内を案内して頂く。

日本の人口は江戸時代には約三千万人であったが、明治時代以降に急激に増大し1920年代末には六千万人を突破した。人口過剰論の台頭が海外移住への政策的な背景となった。ブラジルには1908(明治41)年から1971(昭和46)年まで約25万人が神戸港から移住した。現在は約200万人もの人口を誇る世界最大の日系人社会が存在している。

国立移民収容所(1928(昭和3)年築、設計:置塩章)は移住者の神戸出港準備を目的に建てられた。1週間から10日程度の滞在期間中に、出国手続や健康診断を行うとともに、移住先国に関する講習を受けて新天地に旅立っていった。建物は1971(昭和46)年の閉鎖後は看護学校等が入居していたが、2009(平成21)年に「神戸市立海外移住と文化の交流センター」として再生した。

館内の展示は以下より構成される。

■ 1階

- A: 神戸から世界へ
- B: 神戸と移住の歴史
- C: 建物の記憶・人々の記憶

■ 2階

- D: 新天地への道のり
- E: 新天地に生きる。
- F: 神戸から世界へ～多文化共生に向けて

■ 3階

「芸術を生かした創生の広場」ギャラリー3
ブラジル移住者の多くはコーヒー農園に従事したが、中には日系銀行や農機具メーカー等の創業者もいた。特に、1932(昭和7)年に渡航した西村俊治氏は「ジャ

クト農機株式会社(JACT)」を創業した。そして世界初のコーヒー収穫機の開発に成功し、一代でブラジルの有カブランドに育てあげた。

現在、日本の移民受入数はOECD(経済協力開発機構)38国のうち第4位である。日本で働く外国人労働者の心情理解に役立つ展示であると感じた。



写真4 移住ミュージアムの見学シーン

なお、文学作品には、以下で登場する。

- ・国立海外移民収容所
石川達三「蒼ぼう(そうぼう)」新潮文庫, p. 5, 1930(昭和5)年。

予定どおり16:00に退出して北野異人館街に向かう。旧グラシアニ邸と旧ビショップ邸はどちらもレストランに保存活用中である。なお、旧グラシアニ邸は2012(平成24)年に火災焼失したが見事に再建されていた。裏道には非公開の異人館も多く居住中のようだ。界限は以下の文学作品で散見される。

- ・トアロード・中山手三丁目・神戸市電
谷崎潤一郎「赤い屋根」『谷崎潤一郎全集』p. 343, 『改造』1925(大正14)年7月号。
- ・トアロード
妹尾河童『少年H』講談社下巻, pp. 352-353, 1947(昭和22)年。
- ・阪急神戸駅・阪急会館
谷崎潤一郎『細雪(下)』新潮文庫, p. 142, 1938(昭和13)年。
- ・阪急三宮駅西口
玉岡かおる『サイレントラブ』新潮文庫, pp. 322-323。

見学の最後は生田神社である。境内には、源平合戦の時代からの「生田の森」が生い茂っている。玉垣には神戸の有力企業の名前が多く見られるが、三井住友銀行の前身行のひとつ「太陽神戸銀行」も存在する。玉垣は時代のタイムカプセルのようだ。

阪急三宮駅は2021(令和3)年に新築された29階建の複合施設である。低層階は阪神淡路大震災で全壊した神戸阪急ビル東館(1936(昭和11)年築)のイメージを継承している。

「移住ミュージアム」の見学では、天辰充幸様(一般財団法人日伯協会、海外移住と文化の交流センター

移住ミュージアム 専門調査員)にお世話になりました。
厚く御礼申し上げます。



写真5 太陽神戸銀行の玉垣

【お知らせ】

奥谷金網製作所ミュージアム(神戸市中央区)が 開設しました

1895年創業の産業用金網メーカー、奥谷金網製作所は、6月1日、博物館「OKUTANI HISTORY MUSEUM」を本社ビル1階に開設した。過去の製品や加工機械など約30点のほか、同社年表や金網業界の歴史をまとめたパネルも展示されている。

- ・所在地：神戸市中央区相生町4丁目5-5
- ・開館時間：平日(営業日)の9:00~18:00
- ・電話：078-351-2531(代表)
- ・会社HP：<https://www.okutanikanaami.co.jp>

学会誌の電子ジャーナル公開について

これまで第4号までの掲載論文公開済みで、後続号の公開作業が中断していましたが、7月以降再開します。
アクセス統計(2022年4~6月分)

科学技術振興機構(JST)より提供された2022年4~6月分の「J-STAGEアクセス統計データ」(クローラーによるアクセスを除外)の概要です。

- ・2022年4月：
掲載論文数(これまでに掲載済みの分)：16
書誌事項へのアクセス数：合計 160回
全文PDFへのアクセス数：合計 105回
(アクセス数が最も多かった論文：書誌事項；26回、全文PDF；19回)
- ・2022年5月：
掲載論文数(これまでに掲載済みの分)：16
書誌事項へのアクセス数：合計 155回
全文PDFへのアクセス数：合計 128回
(アクセス数が最も多かった論文：書誌事項；38回、全文PDF；51回)
- ・2022年6月：
掲載論文数(これまでに掲載済みの分)：16
書誌事項へのアクセス数：合計 137回

全文PDFへのアクセス数：合計 118回

(アクセス数が最も多かった論文：書誌事項；27回、全文PDF；23回)

2022年度第1回役員会議事録

日時：5月11日(水)19:30~21:00、オンライン開催
参加者：中山会長、岡田副会長、貝柄幹事、寺島幹事、
二階堂幹事、溝口幹事、若林幹事
議事：

1. 前回役員会議事録の承認
2. 2022年度総会書面議決
回答者数：28名、賛成者数：28名で承認された。
3. 2022年度役員体制について
事務局：中山会長、編集委員[学会誌]：貝柄幹事、
中山会長、二階堂幹事(J-STAGE)、[ニューズレター]：
寺島幹事、二階堂幹事、若林幹事、[ホームページ管理・
オンライン会議]：貝柄幹事、見学：岡田副会長、
二階堂幹事、溝口幹事、会計：二階堂幹事
4. 次回見学会
「街歩き」として見学会「文学作品に記録された近畿の
鉄道と都市景観」(神戸市中心部 その1)を実施。
実施日：5月28日(土)、集合：JR「元町」駅、13:30
5. 学会誌第16号について
投稿予定者の進行状況について報告あり。
6. 学会誌の電子ジャーナル公開について
総会行事後に再開。
7. ニューズレター126号
5月中旬に発行予定。
8. 調査・研究について
・堺港発電所、津守下水処理場の調査、大阪湾岸臨海
工業地帯景観調査の映像公開について報告あり。
9. その他
中元会員の学会誌掲載論文の著作権使用許可を承認。
長壽會細菌研究所より工場施設ガイドの支援要請あり。
学会封筒の印刷を発注。
次回役員会：2022年7月6日(水)、今後、開始時間を
19:15に変更。

2022年7月15日発行

編集 近畿産業考古学会 編集委員会

発行 近畿産業考古学会 会長 中山嘉彦

URL：<http://kinias.jp>

事務局 564-8511 大阪府吹田市岸部南2丁目36番1号

大阪学院大学 経済学部 中山嘉彦研究室気付

Tel:06-6381-8434(代)、Fax:06-6382-4363(代)

E-mail: kinias-ec@nifty.com

会費納入先(郵便振替)

口座番号：00950-9-150085、加入者名：近畿産業考古学会